

第4回 A 中学校(仮称)準備委員会 会議録

開会日時 令和8年3月24日(火) 午後 2時00分
閉会日時 令和8年3月24日(火) 午後 3時16分
場 所 愛西市役所 南館1階 会議室1-3、1-4

■ 出席委員

委員長	勝田 拓真
副委員長	城 泰平
稲葉町総代(佐屋小学校区)	牛田 尚健
内佐屋町総代(佐屋西小学校区)	眞野 保
森川町総代(立田南部小学校区)	伊藤 眞二
戸倉町副総代(立田北部小学校区)	西村 憲一
佐屋中学校学校評議員	横井 直
佐屋中学校学校評議員	中村 博子
立田中学校学校評議員	浅野 季子
市江小学校PTA	藤田 哲朗
佐屋小学校PTA	西水流 真央
立田南部小学校PTA	片岡 まゆか
公募委員	安田 里美
公募委員	上田 昌代
立田中学校校長	服部 洋子

■ 欠席委員

東保町総代(市江小学校区)	加藤 保
佐屋中学校PTA	佐藤 精一
立田中学校PTA	菱田 裕哉
佐屋西小学校PTA	佐藤 英助
立田北部小学校PTA	上野 和也
公募委員	林 紀子
公募委員	上田 城弘
佐屋中学校校長	吉次 章浩

■ 事務局

教育委員会

学校教育課長

学校教育課主幹

学校教育課主査

学校教育課主事

伊 藤 光

荒 井 昇

水 谷 繁 夫

柳 瀬 悠 里

■ 傍聴者

0 名

1. 開会
2. あいさつ
3. 議事
 - (1) 検討部会の報告
 - (2) 答申書（案）について
 - (3) 今後の検討について
4. 閉会

(学校教育課長)	本日はご多用の中、定刻までにお越しいただきありがとうございます。 本日、進行を務めさせていただきます、学校教育課長の伊藤です。よろしくお願ひします。東保町総代の加藤保さま、佐屋西小 PTA の佐藤英助さま、佐屋中学校 PTA の佐藤精一さま、立田中学校 PTA の菱田裕哉さま、立田北部小学校 PTA の上野和也さま、公募委員の上田城弘さま、公募委員の林紀子さま、佐屋中学校校長の吉次章浩さまにつきましては仕事の都合により、欠席の旨、連絡がありましたので報告いたします。ただ今より、第4回 A 中学校（仮称）準備委員会を始めます。当会議におきましては、「愛西市審議会等の会議公開に関する要綱」の規定により、公開の会議となります。本日は傍聴人の方はお見えになっておりません。また、本会議では、オブザーバーとして愛西市教育委員会の水谷委員が同席しますので、ここでご報告いたします。最後に、当委員会議事録作成のため、事務局も録音をさせていただきますのでよろしくお願ひします。
(学校教育課長)	続きまして、本日配布の会議資料について、ご確認をお願いいたします。配布資料としまして、次第、資料1「各検討部会の意見」、資料2「答申書（案）」となっております。不足がありましたらお知らせください。 《不足なし》
(学校教育課長)	それでは、次第の2あいさつ、勝田委員長、よろしくお願ひいたします。
(委員長)	みなさま、こんにち。委員長の勝田です。本日は年度末の大変お忙しい時期にご出席いただき、誠にありがとうございます。先週は小学校で卒業式、そして今日は小中学校での修了式が行われ、ちょうど子どもたちの新たな旅立ちの季節となりました。保護者の皆様、地域の皆様おめでとうございます。さて、昨今は教育現場でもVUCAの時代という言葉をよく耳にします。先行きが分からない、見通しが立たない、予測困難な時代と言われておりますが、思い返せば、昨年8月に開催した前回準備委員会の頃から、今日に至るまでを振り返ってみるとまさにそうだと感じます。社会情勢や日本を取り巻く状況が大きく変化しています。このような時代だからこそ、生きる力や生き抜く力を育む必要があるのではないかと最近よく考えます。委員の皆様方には、引き続き子どもたちへのお力添えをお願い申し上げます。昨年11月に委員の皆様方には部会を開催していただき、熱心に議論を重ねていただきました。この後、部会長様に報告を行っていただきます。そして、答申書を教育長にお渡

	しさせていただきます。本日も忌憚のないご意見を頂戴いただければ幸いです。本日もどうぞよろしくお願いいたします。
(学校教育課長)	ありがとうございました。続きまして、次第の3議事に移ります。ここからの進行は、勝田委員長お願いいたします。
(委員長)	それでは、次第の3議事に入ります。(1) 検討部会の報告について、11月に施設・通学路部会、地域課題部会、教育・学校運営部会が開催されておりますので、それぞれお願いしたいと存じます。はじめに施設・通学路部会について城部会長さんよろしく申し上げます。
(委員)	施設・通学路部会では、主に3つのことについて話をしました。まず1つ目は、通学についてです。まず、区域内でどこが危険な場所なのかを洗い出しました。思いのほか、危険箇所が沢山出ました。基本的には細い場所や信号が無い場所など、色々と見たのですが、やはり1番は155号線をどうやって渡らせるかという点でした。まずそこをどうするかということで話が出ました。それに伴って、交通標識や街路灯など、環境整備を行う必要があるのではないかという意見も出ました。次に、再編するということで、駐輪場の増設が必要なのではないかという意見も出ました。3つ目です。こちらは以前からの問題かと思いますが、再編することで学校までの距離が遠くなってしまう方について、B中学校(仮称)に行った方が早いのではないかという意見も出ていました。現在も区域外の就学は理由があれば認められることだと思いますが、その辺りの基準の整理をする必要があるのではないかという意見が出ました。あとは、スクールバスの検討や県の基準の6キロというものもありますので、その辺りをどうするかという話も出ました。
(委員長)	ありがとうございました。続いて、地域課題部会について浅野部会長さんよろしくお願いいたします。
(委員)	学校と地域の連携について、将来の地域を担う人材育成として、ゲストティーチャー、外部からの先生やボランティアとしてご協力していただける方の情報を集める、また共有する必要があるということを考えました。PTAについてですが、両校のPTA役員が集まり規約等を協議し、総会で承認していくべきだと考えております。佐屋、立田のPTA活動は異なっているため、それぞれの学校の良いところを取り込みながら新しいPTA活動を進めていきたいという意見が出ました。コミュニティス

	クールについてですが、地域の意見を反映させながら学校運営に生かすことはよいことだが、学校や地域への負担が大きくなるようにするべきだという意見が出ました。昨今の働き方改革の視点を含め、子どもたちの学び場の充実と地域がいかに共存していくかという考えが必要だと思いました。また、佐屋地区納涼まつりや立田地区市民体育大会など、現在行われている地域連携の取り組みを生かしたコミュニティスクール、学校運営協議会制度であるべきだという意見も出ました。これも、地域と学校との繋がりを持って活動することが必要かと思います。
(委員長)	ありがとうございました。続いて、教育・学校運営部会について横井部会長さんよろしく願いいたします。
(委員)	2点ございまして、校名についてと校歌、校章について、検討しました。まず、校名についてですが、地域の学校として愛着のある学校名にしてほしいということで、地域の方々も卒業生や今後入学する方々もお見えになりますので、地域の方の愛着の湧くような学校名にしてほしいという意見がございました。それから、地域に広く根付くような名前にしてほしいということもありますので、子どもたちだけではなく、地域の方々を含めて広く公募してほしいという意見もございました。次に校名だけでなく、教育方針や校訓をまず考える、また、並行して考え、それに即した校名にすることで愛着が湧くのではないかと、2つの学校がまとまったときに方針が決まっていれば、保護者の不安も取り除けるのではないかとという意見がございました。続いて、校歌、校章についてですが、A、B 中学校（仮称）で同じ校歌にすることができるのではないかとということで、これは蟹江町の学校で同じ校歌を採用しているという話を聞きました。校歌の作成に係る予算が削減できる、また、地域は違いますが、同じ校歌ということで大人になったときに同郷の方同士でのコミュニケーションを取ることができるのではないかとという意見がございました。それから、校章と制服のエンブレムも統一してしまえば、予算も含めて良いのではないかとという意見が出ました。
(委員長)	ありがとうございました。それぞれの報告を聞いて、何かお気づきの点、ご質問などありましたらご意見をお願いいたします。
(委員)	佐屋中学校まで遠い立田地区について、スクールバスを採用するのであれば市の積極的な動きが必要だと思いますし、155号線では事故があるということもございますし、積極的に取り入れると良いのではないかと

	と思いました。
(学校教育課主幹)	まず、部会では県の安心安全マップを見ていただきながらご意見をいただいた次第でございます。スクールバスにしる、自転車通学にしる、こういった形で渡ることが安全なのか、色々とお話を伺うことができましたので、参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。
(委員長)	その他、よろしいでしょうか。 《その他委員異議なし》
(委員長)	それでは、(2) 答申書(案)について、に移ります。事務局より説明してください。
(学校教育課主幹)	<資料2「答申書(案)」より説明>
(委員長)	ありがとうございました。今説明がございましたが、委員の皆様、何かご意見はありますでしょうか。
(委員)	6キロという基準が遠いなと感じますので、スクールバス等の配慮が必要なのではないかと思います。立田地区の方が大変なのではないかと思います。
(学校教育課主幹)	6キロは国の基準となっております。それぞれの事情があるかと思えます。国の方には、山間の場所にお住まいの方や船を使用しなければならない、橋を渡ってこなければならないなど、様々な事情があるということも記載があります。根拠については、児童生徒にとって負担のないところということで検証結果も記載がありましたので、6キロの基準を参考に記載させていただいております。
(委員)	最初に、教育委員会から諮問書をいただき、私たちが集まって会議を行ってききましたが、正直、予算が中々つかないまま、2年間過ごしてきたという感じが私自身あります。皆さんの中にもそういったことを思われる方もいらっしゃると思います。そういった中で、この答申書がどこまで回答になっているのかなと思うところです。今回の準備委員会の出席人数もだいぶ減っているかと思います。予算が取れていればまた変わっ

	てきたかと思いますので、そういった文言を入れていただくことはできないのでしょうか。確かに、予算は教育委員会がつけられることではないので難しいことだと思いますが、子どもたちのことを考えると喫緊でやらなければならないことだと思いますので、そちらの文言を入れていただくことはできないのでしょうか。もう一点、諮問書の方にあった文章の「2. A中学校（仮称）の創設に求められること」の「(1) 教育計画や学校運営等に関する事」にある、2段目の部分に「生徒への成績評価、生徒指導、生徒会活動、部活動など子どもたちの学習や学校生活の多くの部分で学校ごとに異なるため、調整や新規制定はもちろん、反映させる時期についても非常に重要になります。」とあります。私たちが今すぐできることはこういったことなのかなと思います。予算がつかなくても、部活動を一緒にやったり、活動の一部を一緒にしたり、それこそ私たちが検討した通学路のことや校歌のことを中学生、小学生と一緒に検討することは予算がなくてもできることだと思います。大人だけで集まるのではなく、来年度以降、準備委員会をされるのであれば、そういった点も検討されると良いと思います。
(学校教育課長)	予算のことについては、後ほどお話しさせていただきますが、教育委員会からの諮問を受けての答申ということで、「検討すること」と記載がありますが、これについては教育委員会として重く受け止める必要があると考えております。答申書を基礎にこれからの検討を進める必要があると思っております。予算については、財政部局との協議が必要になりますので、引き続き行っていきたいと思っております。
(学校教育課主幹)	2点目につきまして、生徒指導については学校間での差異が出ないように、地域の事情に合わせてということで、意見共有、情報共有を行っております。部活動について、私は部活動の地域展開も担当しておりますので、併せて説明させていただきますと、子どもの数が減ったことによって、中々チームで部活動を行うことが難しいという事情もあります。立田中学校のソフトボールは弥富との合同で行っている現状もございます。生徒会活動に関しては、生徒会役員を中心に中学生サミットで防災や学校のルールについて、違いのある学校同士で話し合い、こういったところで合わせていくことが良いのかなど、検討していくことはできると思います。今年度はスマホの扱い方をどうしていくと良いのかというテーマで、中学生サミットの意見を出し合い、交流は続けております。生徒指導につきましても、子どもたちから意見をもらいながら、違いを尊重しつつ、こういった形が子どもたちにとって住みよい学校になるの

	かというテーマで、中学生サミットで話し合い、発表も行っております。そういった交流も継続していければと思います。
(委員)	佐屋中学校まで6キロは地区としてどの範囲になるのでしょうか。どの境目になるのか、教えてほしいです。
(学校教育課長)	6キロは国の基準として示しており、はっきりとどこまでということを決めているわけではありません。スクールバスを走らせる場合は乗車人数等も関係してくるかと思いますので、その辺りで決まってくるのではないかと考えております。
(委員)	金棒の方は道が狭いと思います。その辺りも整備されるのか、立田地区だけではなく佐屋地区の方でも整備を実施していくのか、教えてください。
(学校教育課長)	中学校は通学路という概念があまりなく、ただ、主に生徒が通る道路は土木課に伝え、安全な対策をしてくださいという話は毎年させていただいております。これからも引き続き行ってまいります。
(委員)	今、佐屋中学校体育館で雨漏りがひどく、傘を差さないと卒業式ができなかったという話を聞きました。こういった再編を行うことも大切だと思いますが、現状を把握しなければやっていかなければ、前に進まないと考えています。今の状態、問題を解決しつつ、未来に対する意見を出していかなければうまく進まないのではないかと思います。地域の言葉や未来に対する希望もありますので、検討しつつ進めていただければと思います。
(学校教育課長)	雨漏りがひどいのは永和中学校のことだと思います。老朽化対策として、建て直しを実施する予定です。永和中学校体育館の雨漏りについては、何度も補修をしたのですが、治らない状況で、今後建て直しを進める予定です。それ以外にも、学校での授業に支障の出る雨漏り、電気や水道が漏れているなど、ライフラインに関わるようなものは今後も優先的に修繕してまいりたいと思っております。
(委員長)	本日ご意見をいただいた点について、後日事務局に修正をお願いしますが、大幅な修正はなかったもので、本日教育長に答申させていただいてもよろしいでしょうか。

	(委員長から教育長へ答申書を渡す。)
(委員長)	ありがとうございます。それでは、続いて(3)今後の検討について、事務局より説明してください。
(学校教育課長)	2年前の令和6年3月に愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策基本計画を教育委員会が策定し、この準備委員会が令和6年9月から、佐屋中学校と立田中学校の再編に関して、委員の皆様方には検討していただき、誠にありがとうございます。これまでの準備委員会で開校年をお示しできないとX年として資料に記載させていただいておりました。そのX年がいつになるのかということですが、校舎を大規模改修または改築すると、過去の事例などから、基本構想、基本計画という設計の前段階から、基本設計、実施設計、工事と最短で5年にかかるということで、5年後がX年ということで、これまで資料に記載させていただいておりました。さらにその基本構想、基本計画の前に、建物の耐力度調査を行わなければ、国の補助が受けられないという話も以前させていただきました。耐力度調査の予算計上が見送られるたびに、予定を先に延ばしてきたところで、これまで何度も財政部局との協議を重ねてきましたが、令和8年度の予算にも計上することができませんでした。令和8年度予算については、昨日愛西市議会で可決したところでございます。つきましては、A中学校(仮称)の再編について、次の段階に進むことができないという状況であります。教育委員会におきましては、愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策基本計画の施策1として、佐屋小学校の老朽化対策、施策5として永和中学校体育館の老朽化対策にも取り組んでおります。この両方とも、令和7年度に基本計画の策定まで進んだところでございますが、次の段階に進むことができるのが永和中学校体育館の老朽化対策のみとなっております。こちらは令和8年度に進めてまいります。佐屋小学校の概算費用が総額74億円程度と見込まれ、佐屋小学校の老朽化対策を進めることが困難な状況になっております。市としては、令和8年度に永和中学校体育館の老朽化対策に取り組み、佐屋小学校の老朽化対策はその後とせざるを得ない状況となっております。従いまして、A中学校(仮称)につきましても、今の計画である老朽化対策後の再編という計画で進めることは難しいという状況となっております。従いまして、準備委員会につきましても、任期である今年度末をもちまして、一旦一区切りとさせていただき、令和8年度につきましましては、教育委員会で今後の進め方について、検討をすすめていただ

	だきたいと考えております。皆様方には、準備委員会、検討部会で、私も全ての準備委員会と検討部会に出席させていただきましたが、真剣にお話し合いいただき、感謝しております。ただ、今の状況はこういった状況であるということでご理解いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
(委員長)	委員の皆様、何かご意見はありますでしょうか。 《意見無し》
(委員長)	ありがとうございました。今回で一旦区切りになりますので、最後に委員の皆様方から一言ずついただけますか。
(副委員長)	今年から副委員長ということで、2年間携わらせていただきました。私自身、最初は何をやるのかなと思っておりましたが、すごく良かったなと思います。中々こういった会議に出席する機会はないので、色々な皆さんの意見に対し、私自身も思うことがありました。皆さん熱心で良い会議だったなと思いました。私も立田北部小学校から立田中学校に進学し、地元の人間ですが、正直このお話を聞いたときは母校が無くなるということはすごく寂しい思いをしまして、このままでいいのにとというのが正直な気持ちだったのですが、中々人が少なくなってくるという現状がすごく切実に、まだ今はやっていけるかと思いますが、急には再編はできないので、きちんと進めていくということは大事だと思います。意見はすごく出て、皆さんの落としどころを探すことが大変なことだと思いますので、なるべく良い話になっていくように、まとめていってほしいと思います。先ほどの予算がつかないということは、あれと思ってところですが、優先順位が色々あるので難しいかと思いますが、いいように決まっていってほしいと思います。ありがとうございました。
(委員)	市江小学校のPTAということで2年間、委員会に出させていただきました。ありがとうございました。何もお役に立てなかったので、申し訳ないなと思いますが、多分みんながみんなこんなはずではなかったという気持ちだと思いますので、何を話すにもという状況で、準備委員会が一旦区切りということで、賢明なご判断だったと思います。このまま準備委員会が進んでいっても同じような状況が続くかと思いますので。準備委員会は終わりますが、地域の大人として、大変な問題だと思いますので、この後も注視して関わることがあれば、関わっていきたいと思

	いますので、よろしくお願いいたします。
(委員)	2年間携わってきましたが、最初どのような会議をするのかなというわくわくと不安もありながら、会議に入らせていただきましたが、結局予算がつかないということで一つ一つできることをやっていって、地域なので自分たちの住んでいるところですので、今後とも市民として見ていきたいと思います。ありがとうございました。
(委員)	2年間お世話になりました。もう少し話を進められるかなと思い、参加させていただき、結果予算がつかないので区切りということで、残念ではありますが、地域の方にもう少し自分事として意識していただけるよう、広報なども使っていただき、世間話に出るところまで意識が向いていくといいなと思います。子どもたちが育ってよかったなと思える学校が将来建つことを願いつつ、またこういった機会があれば参加させていただければと思います。2年間お世話になりました。ありがとうございました。
(委員)	準備委員会に参加させていただき、希望でわくわくして、いつも参加させていただきました。子どもたちの大人までの過程、夢のある期間をもっともっと支えたかったなと思います。予算というところで、がたつというところなのですが、今老朽化している学校を直していただきながら、地域と子どもたち、学校の先生たちと一緒に、ボランティアでも知恵を絞って、子どもたちが楽しい人生を過ごしていただけるように協力していきたいと思っております。色々と協力させていただければと思っております。今日はありがとうございました。
(委員)	2年間公募委員として、夫婦で応募させていただき、皆さんとお話しさせていただきました。ありがとうございました。私は子どもがちょうど小学校へ上がる子、中学校へ上がる子がいるので、親として意見やどのように決めているのか聞けたらと思い参加したのですが、その2年間の中でも気持ちが何度も変わりました。最初の頃は、クラスが1クラスしかない子どもたちの逃げ場所が無い、そのような状況を作ることが可哀そうだと思って、早くやってほしい、子どもの立場になってやってほしいというお願いをしておりました。そういう気持ちも今でもありますが、現状は中学校2クラス用意できる状況、ただ、1クラスは20人程度になっております。そうすると、子どもたち1人1人に先生方の目が行き届くのでそれはそれでありなのかもしれない、1人1人が主役にな

	って主体的に取り組めることは素敵だから、このままでもいいかなと思う時もありました。先ほど会が始まる前に、立田中学校の校長先生と話させていただいた時に、子どもの立場で見ると、思春期の時期に大人の目でガチガチの中で過ごすというのは子どもにとって果たして良いのかと伺い、私は親の立場でしか見られていなくて、子どもの立場では見られていなかったなと思いました。会議の中でも、予算が取れない、通学路がどうのという話になっていきますが、一番大切なのは今を生活している子どもたちになるかと思っています。5年後、10年後の子どもたちがその時幸せであればそれでいいのかという点と違って、今生活している中学生、小学生のことを考えてやっていく必要があるかと思っていますので、会は終わってしまいますが、親としてそう願っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。
(委員)	今いる子どもたちがのびのびと、安心安全に、自分たちの体験を繰り返して、大人になっていけるようにということで、今年度1年間地域の方の色々な取り組みの姿を見て、いつか自分たちも世代交代をしたときに、あの行事をやったり、手伝いをしたりというような話もよく出ておりましたので、今いる子たちを大事に育てていきたいと思っております。どうぞお力を貸してください。ありがとうございました。
(委員)	2年間ありがとうございました。最初は瀬戸の学校に視察に行ったりと、キラキラした思いから始まりましたが、もしかして佐屋中学校もすごいことになるのではないかという淡い期待がありましたが、話し合っていくうちに、今回予算もつかないという話で残念な結果になってしまいましたが、今の子どもたちのことを一番に考えていただき、今後も色々知恵を絞って、地域の方も協力して、作っていかれたらと思っております。よろしくお願いいたします。
(委員)	ここに参加して積極的に意見が言えたかという点と自信がないですが、先ほどの予算がつかなかったことに対して、マイナスなイメージがあるかと思いますが、決してマイナスではないと思います。学校教育の方でも、準備委員会での検討という過程があって、地盤があって、事実があって、皆さんの意見という根拠があって、これから財政当局とも交渉するでしょうし、今後の計画を予定する、企画する、想像するとなったときに、この事実がないと想像が崩れてしまうので、皆さん、私たちの意見を根拠に事業が推進していくと思います。予算がつかなかったというのは、ただタイミングか、緊急性が二の次になったということだと思うので、

	きっとこれが必要になる、少子化は恐ろしい速さで進みますので、きっと来年、再来年に同じ委員会が発足して、市長の腹積もり1つで決まる時は決まるので、決して無駄ではないと思います。皆さんの意見の中で自分事として考えてというフレーズがありましたが、これはすごく素敵だと思いました。これがないとこれから先の計画がふわふわしたものになってしまうので、とても良い会議に参加させていただいたなと思いました。ありがとうございました。
(委員)	ありがとうございました。2年間、ご意見聞かせていただき、部会長をやらせていただきましたが、皆さん積極的に意見を出していただき、大変ありがたく思います。やっぱり地域に根差したということで、皆さん考えてみえて、意見を出していただいたかと思います。私自身、佐屋中学校の卒業式でして、武道場が出来たとき、3年生でした。思い入れがあるのは、やはり新しい武道場が出来たときは、喜びがかなりありました。部活も楽しくできると思いました。ですので、できれば早くA中学校（仮称）を設立していただき、子どもたちの笑顔が早く見たいなと思いました。ありがとうございました。
(委員)	私は1年の参加でした。それまでは広報や回覧で見させていただいておりました。参加して、色々な意見があり、色々な課題があり、進めることは難しいのかなとも思いましたが、いい会議に参加させていただいたと思っております。少子化は進んでいて、すぐにでもという思いがありますが、今の子どもたちやこれから中学校に上がる子どもたちに、情報を出してもらい、色々目に触れて、少しでもいい方に進んでいければと思っております。ありがとうございました。
(委員)	私も地域の代表ということで森川町の総代で参加させていただき、1年間の参加となりました。やらなければならないということで色々考えておりましたが、予算がないということで、学校関係だけでなく、すべての予算がないです。地域で道路を直してほしいなどの要望を出しますが、そういった予算も年度当初には3分の1に、年度中でも2分の1にという形で、少しの金額でも削減されるということで、愛西市にどれだけ予算が無いかということが分かります。国を見ても、色々な工事が出来なくなっており、国自体にお金がないことが分かります。学校だけでなく、全ての建物が老朽化しているということで、愛西市の中でどれだけ予算を削っていくか。我々も我慢していく必要がある。地域の人が我慢して、学校の方に予算を持っていくなどの我慢をしていく必要がある

	と地域の人が考えていく必要があると思います。そういったことを伝えていかなければならないと思います。施設・通学路部会に参加させていただき、皆さんと意見を出し合えたので良かったと思います。ありがとうございました。
(委員)	A I に愛西市の小学校合併で検索をかけてみました。先ほどの予算の話ですが、令和8年末と出ているのですが、どうなるのかなと思いましたが、ダメだったということで。A I に聞くと、少子化と老朽化によって再編が必要になるということで、こちらの準備委員会はA 中学校(仮称)、八開と佐織についてはB 中学校(仮称)ということで、永和中学校は最終的にはA 中学校(仮称)にくるということが書いてありました。
(学校教育課長)	永和中学校の追統合の計画は、現在ございません。
(委員)	そうなんですね。私は途中から参加させていただきました。何か機会があれば、また参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。
(委員)	地元代表ということで2年間準備委員会に参加させていただきました。先ほど言われたように、学校統合の世間話をしていた時に、弥富市は愛西市よりも合併が後なのに学校の統廃合がスムーズに言っているのではないかという話をしておりました。うわべだけの話ですが。そういった話が出ました。私も特に何も言えなかったですが、結局やる気があるか無いか、お金があるか無いか、どちらが先になるか分かりませんが、両方一緒に回っていけば一番良いですが、両輪が回ると一気に加速して進めばいいのかなと世間話の中で思いました。ありがとうございました。
(委員長)	それでは、最後に私からも一言ご挨拶させていただきます。冒頭で、今は非常に予測困難な時代で社会の変化のスピードも速いという話をしましたが、ただどのような時代であっても、愛西市の子どもたちが、愛西市の学校で学んでよかった、愛西市で育って幸せだったという思いをもち続けてほしい、この願いは不変だと思います。委員の皆様が作り上げていただいた情熱が込められた答申が早期実現し、子どもたちの笑顔あふれる学校づくりにつながることを願っております。委員の皆様、これまでの多大なるご尽力に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

(学校教育課長)	ありがとうございました。本日で、委員の皆様の委嘱期間は終了となります。それでは、最後に教育長から一言ご挨拶申し上げます。
(教育長)	委員の方々の一言一言が胸に突き刺さり、あるいは救われるような言葉もあったと思いながら、今この時間を迎えております。答申を今日いただきました。ここまでは教育委員会が立てた計画通りです。その次に進めなかったということです。ただし、この3月の議会で初めてだと思いますが、教育委員会以外の部局が、適正化及び老朽化、学校問題について、初めて言及して、答弁しました。ここまで来られたんだという思いを持ちました。教育委員会だけでは進まないということが痛いほど分かりました。今までこういう風にしたいという思いだけで、無責任に取られても仕方がない状況になっておりますが、学校を1つ建て替えることの大変さ、体育館1つだけでも大変だということもよく分かりました。教育委員会だけでなく、他の関係部局とも協力しながら進めていくことができる愛西市になったという思いでおります。ただ、目の前の子どもたちに対して何をしているのかという課題についても、今日ご意見いただきました。目の前の子どもたちに何ができるかというこの答えが準備委員会の中の意見交換にもあると思います。そういったものも大切にしていければと思います。今後、教育委員会としては、第Ⅰ期基本計画の全体の見直しを図り、再度、施策2におけるA中学校（仮称）の準備委員会を立ち上げる際には、今回いただいた答申書の内容をもとに、未来ある子どもたちのことを第一に考え、今後とも地域に必要とされる学校環境の整備に努めてまいります。勝田委員長をはじめ、委員の皆様方におかれましては、これまで賜りました貴重なご意見と真摯なご審議に心より感謝申し上げます。本答申が今後の礎となることに深くお礼を申し上げて挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。
(学校教育課長)	それでは、これを持ちまして、第4回 A 中学校（仮称）準備委員会を閉じさせていただきます。委員の皆様方におかれましては、2年間にわたりありがとうございました。